

論文本編の書式について-ゴシック 14pt-

1. 基本事項

用紙はA4サイズとし、余白は上下左右とも 25mm とします。ページ下部中央にページ数を打ってください。以下の書式にしたがい、図表や注釈、参考文献リストを含めた全体を5枚以上 10枚以内に収めてください。表紙は不要です。

1. 1 タイトル

第1行目に論文タイトルを 30字以内で記してください(ゴシック 14pt)。タイトルと本文の間に、2行分の余白を空けてください。なお、氏名や所属は記さないでください。

1. 2 本文

本文のフォントは明朝 11pt とし、1 ページあたり 1300 字から 1400 字程度になるように調整してください。段組は1段を基本としますが、図表を挿入した箇所についてはこの限りではありません。章、節については、適宜たてていただいで構いません。

1. 3 参考文献と注釈

引用文献・参照文献は、論文末尾にまとめて記してください。引用方法や参考文献リストの書き方などは、戸田山和久(2002)をはじめとした論文執筆のための書籍¹⁾に記載されていますので、適宜参照してください。

注釈を付す場合は、本文と参考文献の間においでください。

2. 図表について

図表は本文の適切な箇所に挿入してください。本文中に貼り込む際には、全体のファイルサイズが大きくなりすぎないように注意してください。応募論文のファイルサイズは、上限2メガバイトが目安です。

図表にはタイトルと図表番号を付してください(ゴシック 10pt)。図1に例を示します。



図1 タイトル(ゴシック 10pt)

審査は応募論文をモノクロ印刷して行います。カラーの図表を使用する際は、モノクロ印刷時の見え方にご留意ください。

3. 応募の際の注意

応募の際は、論文本編の電子ファイル（WordまたはPDF）と応募用紙の電子ファイル（同）の2点を同時送信してください。メールの件名は「2013 論文コンテスト応募（応募者名）」としてください。電子ファイル名は自由ですが、論文タイトルや自身の名前などを入れ、他の応募者の作品と区別しやすいようにしてください。

送信先は info@cshe.nagoya-u.ac.jp です。

注

1) 以下の参考文献は、論文の書き方に関する書籍の一部です。附属図書館や高等教育研究センター（文系総合館5階）で閲覧できます。

[参考文献]

荒木晶子・向後千春・筒井洋一(2000)『自己表現力の教室』情報センター出版局。

小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書。

梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書。

木下是雄(1994)『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫。

河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門』第三版、慶応義塾大学出版会。

佐藤望編著(2006)『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会。

戸田山和久(2002)『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス。

樋口裕一(2002)『やさしい文章術—レポート・論文の書き方』中公新書ラクレ。

渡辺哲司「大学への文章学—レポート・小論文はコミュニケーションの手段」

(<http://www.geocities.jp/watets/bunshogaku/preface.html> 2013年6月20日閲覧)。

Bailey, S. (2011), “*Academic Writing: A Handbook for International Students*”, Routledge ; 3 edition.